

Unit 11 冠詞

不定冠詞

冠詞は苦手という人が多いと思います。ここでは不定冠詞 (a) を使う名詞形と使わない名詞形の違いに注目します。まず、どちらを選ぶかは、話し手がどういう対象を念頭に置いているかで決まります。「数えられる名詞」と「数えられない名詞」があるわけではありません。

「1 個卵を割る」は break (crack) an egg といいますが、「ネクタイに卵がついているよ」だと You've got some egg on your tie. となります。

同じように、ピアノを買うときは buy a piano ですが、(音大で) ピアノを専攻するという場合は study (major in) piano です。

「a + 名詞」と「0 + 名詞」を区別するポイントは、以下の通りです。楽器としてのピアノは仕切りのある対象(個体)なので a piano ですが、ピアノ科には仕切り感はありません。ファストフードの店で Give me a coffee. といえば単位としてのコーヒー (a cup of coffee) ということです。「怒ったオバマ」を an angry Obama といいますが、「笑っているオバマ (a smiling Obama)」「ムスッとしたオバマ (a sullen Obama)」などいろいろなオバマさんが想定でき、種類の単一化の例です。小石は a pebble あるいは pebbles といいますが、砂になると個体としての意識がなくなり sand というのが普通です。

同じように、a building といえば「建物」ですが、building になると「建設」になります。There's a lot of building going on here. といえば「ここは建設ラッシュだ」といった感じです。「ボーイフレンドがいます」だと I have a boyfriend. ですが、「私たちはボーイフレンドとガールフレンドの関係です」になると、We are boyfriend and girlfriend. になります。

物質名詞の特徴

物質名詞はふつう不定冠詞をつけたり複数にしたりしません。それはどうしてでしょうか。単に「数えられない名詞」というだけではピンときません。物質名詞と普通名詞の違いは、単一化が重要であるかどうかにかかっています。物質名詞とされる water (水)、sugar (砂糖)、air (空気)などは、どこをどれだ

け切りとっても水は水であり、空気は空気です。ところが、car（車）の部分を切りとればもはや車ではなくなります。a chicken（にわとり）と chicken（鶏肉）の違いはまさにこの点にあります。数えられないから物質名詞なのではなく、どこからどれだけ部分を取り出しても、実体は同じであるから物質名詞と呼ぶのです。

不定冠詞と複数を選択

名詞のなかには複数形がふつうのものも多くあります。数えようと思えば数えられる個の集合として話者が知覚しているときには複数形がふつうです。例えば、leftovers（残りもの）、groceries（雑貨）、oats（からす麦）、noodles（うどん）、peas（豆）、supplies（貯蔵品）、valuables（貴重品）、refreshments（軽い飲物）、woods（森）、guts（腸）、bowels（内臓）、clothes（衣服）などがそうです。「内臓」とか「腸」は素人には複雑な要素の集合であり、いちいち数えることはありません。そこで複数形の bowels、guts が選ばれます。clothing は単数で clothes は複数になるのは一見矛盾するようですが、実はとらえ方（知覚の仕方）が異なるのです。clothes だとジャケット、スカートなど身体をおおう衣類の一式を指すのに対して、clothing はいかなる組み合わせであれ衣類であればよいというわけです。